

西日本図書館学会平成20年度秋季研究発表会 別府大学司書課程における資料特論 絵本作り

川野 洋子

研修報告

昨年度から司書課程の資料特論では絵本づくりを実施している。

絵本作りは、1987年司書補講習科目「製本と修理」に取り入れ、その後1997年司書講習科目「図書館特論」でも実施されるようになった人気のある科目である。実際に手づくり絵本を作ることによって楽しみながら製本の構成を知り応急処理ができたという願いで始まった。



司書講習

・製本と修理・図書館特論

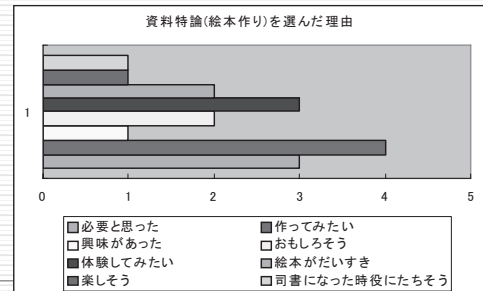
- 1961年(昭和36年)司書講習始まる 司書補 製本と修理
伊藤伊商店 伊藤 明
- 1987年(昭和62年)司書補 製本と修理 -絵本作り-
別府大学 野村正則
- 1997年(平成9年)司書・司書補 図書館特論-絵本作り-

講義の工程

1. はじめに 紙の話等
2. 絵本の大きさを決め紙を選ぶ(大・中・小)
3. 中身の製作
4. 糊入れ
5. 表紙作り(ハード本)
6. 表紙に絵を描く・表紙と中身の接着
7. 修正と発表

資料特論(絵本作り)を選んだ理由

2008. 6. 4 前期・前半

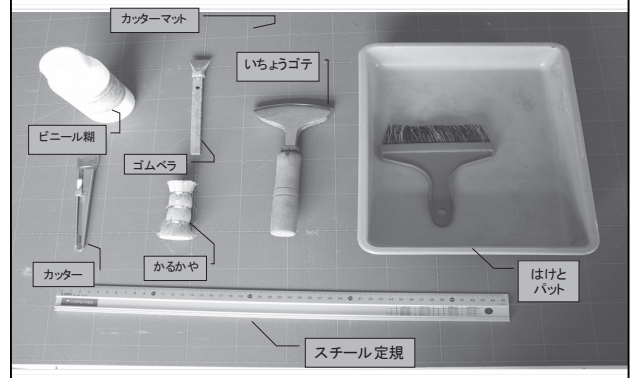


授業風景

楽しい絵本作り 美術教室



用具



5. 中身の化粧裁ち



5. 表紙作り(ハードカバー)



6. みぞを作る



6. 中身と表紙の接着



7. 修正と発表

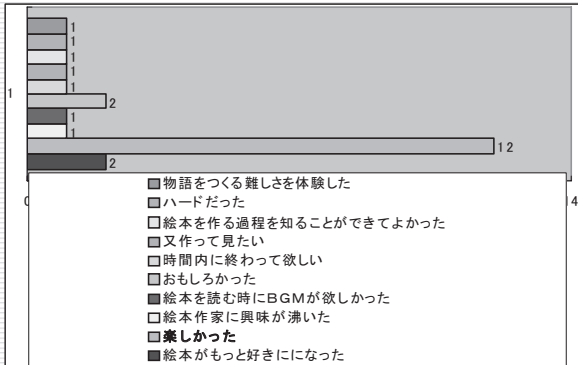


7. 発表 別府大学附属幼稚園で



授業を終えて 感想と要望

2008. 11. 5 前期・前後半



2008年度 司書講習



終わりに

資料特論 ー楽しい絵本づくりー

- ・製作しながら本の部分名称を知る
- ・充実感を味わう事ができる
- ・友達と意見交流をしながら作品づくり
- ・読み聞かせ 楽しさの体感



発表を終えて

幼児教育の現場にはかかせない絵本

幼稚園では、子どもたちがいつでも好きな時間に自分で選び自由に読めるように準備していた絵本コーナー。絵本の種類もたくさんある中で、子どもたちが「読んで～」と持って来る本の中に「昨日、読んだ本！もう一回、よんで～」と言って来るのがよくある。

ストーリーはもう知っているはずなのにページをめくる毎に目を輝かせ好きな場面になると読み手の顔と絵本を交互に見ている。絵本は子どもたちの視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚の五感を刺激しているのがよくわかる。こちらもその表情を楽しみながら絵本を読むのを楽しんでいたことを思い出す。

日本には、すばらしい四季の移り変わりがあり、その季節を30歳の大人は30回。

春の桜に会いその時の春風・はなびらの散る様・夜桜を知り日本の四季に出会っている。幼稚園の3歳児は、3回目の春である。花びらが風に吹かれてちらちら落ちる様を見てどう感じるだろう。今まで体験したことのない嬉しさに浸るかもしれないし、同じ時間に体験した回りの人たちが無表情であれば“そういうものか”とを感じるかもしれない。

絵本は、そんな出会いをまた本の世界の中で再び甦らしてくれる。あの時感じなかった感動を開けば何度でも見ることができる。最初の出会いはとても強烈に残っているものだと感じる。

資料特論（手作り絵本）では、今年、発表の場を直接園児の前で読むことができた。思いを込めて作った1冊の絵本を幼稚園の部屋に行き直接園児に触れ、絵本を読む貴重な体験の場になった。

（かわの・ひろこ 川野洋子 別府大学附属図書館）